

第2回 田浦小学校跡地活用検討協議会 会議録

■日 時：令和7年7月4日（金）19：00～20：40

■場 所：田浦コミュニティセンター3階第2・3学習室

■出席者：協議会委員 出席10名 欠席1名

傍聴者 3名

FM推進課（事務局）	課 長	山中	理
	主 査	土田	正和
	主 任	岩崎	勝美
	主 任	薄井	良真
教育政策課	課 長	飯田	達也
危機管理課	課長補佐	内村	裕貴
田浦行政センター	館 長	柳井	栄美
	副館長	加藤	英明

■内 容：＜議題＞

（1）学校跡地活用の検討

- ・田浦小学校跡地活用案の検討について
- ・田浦小学校地域説明会の意見について

概 要

1 開会

2 事務局挨拶

（FM推進課長）

こんばんは。お忙しい中、遅い時間帯にご参加いただきましてありがとうございます。前回の会議から4ヶ月近くが経過し、大変お待たせをしました。

この間、田浦小学校につきましては、皆様のご理解、ご協力をいただきながら、長浦小学校との統合をこの4月に行ったところです。また、先月には住民向けの跡地活用説明会を開催させていただくなど、地域の皆様をはじめ、多くのご意見をいただく場を設けさせていただきました。

さらに、学校の跡地の現状に目を向けさせていただければ、これまで学校開放で利用いただいていた既存のスポーツ団体などに、暫定利用として引き続きお使いいただいているほか、先日には選挙の投票所として利用をいただいています。

田浦小学校につきましては、ご存知のとおり、市内で一番古い校舎があることや、周辺の道路が狭いなど、いくつか考慮しなければいけない背景はありますが、こうした状況も踏まえつつ、協議会の皆様には跡地活用に関するご意見を多数いただければと考えております。

後ほど改めて紹介させていただきますが、今回から会議の進行を外部のファシリテーターにお願いすることにさせていただきました。

皆様から多様なご意見をいただきますよう、また分かりやすくお答えできるように、新しい体制で進めて参りたいと思いますので、改めてどうぞよろしくお願いいたします。

3 ファシリテーター挨拶

皆様こんばんは。西尾と申します。ファシリテーターとして皆様の意見交換の進行役をさせていただきますと思っています。

私は市役所の人間ではありませんが、外部のアドバイザーという形で横須賀市の公共施設の取り組みについては計画策定の段階から関わらせていただいておりますので、状況についてはある程度理解しております。

私の経歴を申し上げますと、民間のシンクタンクで研究員をしております。また、他の自治体になりますが、市役所が一定期間、民間人を採用する制度があり、任期付任用で市役所職員を4年間ほどしておりました。その時は市役所職員の立場で公共施設の問題に携わっていたので、そういった経験から行政職員としてこの公共施設の問題を進めていく立場や事情も分かりますし、地域の一員としてどうしていきたいかということも分かります。これら両方をうまく繋いで良い形でこの話がまとまっていけば良いと思っています。

そのような形で進めていきたいと思っておりますので、どうぞ皆様よろしくお願いいたします。

4 議題

(1) 学校跡地活用の検討

(事務局)

事務局が資料の内容を説明。説明の概要は以下のとおり。

① 田浦小学校跡地活用案の検討 **資料1**

- 跡地活用の大きな方向性を「地域住民などが集うコミュニティ拠点としての機能」と「地域の活性化・賑わいに資する機能」としており、検討における4つの視点を示した。

視点1：土地に対する法的条件

- ・用途地域は住居系であり、建物の用途に制限がある。
- ・事務所や宿泊施設などの活用のほか、遊戯施設や工場などの建物は、原則設置が認められず、規制緩和のための一定の手続きが必要となる。
- ・周辺道路が狭いことから、新たな建物を建てる際には原則延べ床面積 1 千㎡未満に制限される。

視点2：施設の物理的な条件

- ・敷地面積は約 6,800 ㎡と広大で、敷地の南側（体育館側）は、一部が土砂災害特別警戒区域となる。また、西側校舎は老朽化で今後の活用は困難と考えている。
- ・北側校舎と体育館は目標耐用年数を 80 年と考えており、適切な修繕を行っていけば、今後 20 年弱は活用できる見込み。また両建物を併せた延床面積は約 2,500 ㎡であることから、複合的な利用も可能と考えている。
- ・現地までは J R 田浦駅から徒歩 10 分程度の距離であるが、跡地活用の用途によっては、駐車場の確保等の対策が必要になる。
- ・国道から現地に至る道路は幅員が狭く、頻繁な車両通行には課題がある。

視点3：持続可能な運営

- ・施設の活用方法によっては大規模な改修や維持管理にコストが発生するため、収入を得ることや民間ノウハウの導入などによるコストの縮減、質の向上につなげるアイデアも重要。

視点4：地域ニーズや既存機能への対応

- ・地域のシンボルであった田浦小学校の跡地を今後のまちづくりにどう活かしていくかを考える視点。
- ・地域説明会などを通じて多様な意見や要望が寄せられており、こうしたニーズを踏まえて地域の魅力と活力の向上に繋げることが必要。
- ・避難所、投票所、スポーツでの学校施設開放など、既存機能の将来的な維持についても検討が求められる。

② 田浦小学校地域説明会の意見 **資料2**

- 5月に開催した地域説明会において、会場でいただいたご意見と意見用紙でいただいたご意見を合わせたものを分類別にお示ししている。資料の左側には地域説明会の概要、来場者数、意見の数、意見の収集方法、期間等を記載している。
- 意見の分類・集計
 - ・ 福祉・地域活動・居場所（28%）
老人ホーム、入浴施設、子ども食堂、高齢者向けの配食ステーション、コミュニティセンター、図書室の利用再開、花壇の利用。
 - ・ 公園・広場、遊び場・スポーツ（22%）
公園、広場、子どもたちの遊び場、ドッグラン、スポーツジムとして活用。
 - ・ 防災・安全対策（20%）
避難所を継続、体育館を改修しての避難所として利用。
 - ・ その他：商業・賑わいや暫定利用に関わる意見あり
 - ・ 個々の意見については資料2の3ページ以降を参照。
- 意見数としては説明会場での意見数は42件、意見用紙等による意見72件。
- 意見用紙による回答での年齢層は60歳以上が半数強。
- 意見用紙による回答での居住地は大半が旧田浦小学校区。

③ 田浦小学校児童による跡地活用の提案について **参考資料**

- 昨年度、田浦小学校6年生の総合学習において、田浦小学校の跡地活用をテーマに児童による検討、意見提案があった。
- 児童から出た主な意見は、全体的に「田浦小学校に人が集まり、田浦の賑わいを創出する活用」というコンセプトで共通しており、具体的な活用としては食堂やフードコートなどの飲食店を中心とした複合的な活用案が多かった。

【質疑・意見交換】

（ファシリテーター）

- 協議会は全5回ほどを1年間で行っていく予定で、活用に向けたアイデアを各委員から多く出していただきたいというのが、本日、第2回目の位置づけとなっている。
- 実際には、できること、できないことがあると思うが、活用案の絞り込みは第3回の協議会以降に行うこととし、今回、制約条件などはあまり考えずに、たくさんアイデアを出していただきたい。
- 初めに、資料1で「4つの視点」について説明があったが、これについて何か気になることや聞きたいことがあればご質問いただきたい。

- 視点1の「土地に対する法的条件」について、田浦小学校跡地を宿泊施設などで活用するには一定の手続きが必要になる。また、周辺道路が狭いため、建物を新築する場合の延床面積は1,000㎡未満に制限されることがあるが、視点1について質問や確認しておきたいことはあるか。

(委員)

- グラウンドの地中にはスプリンクラー配管があると思うが、例えば、車の出入りや建物を建てる際にほかに何か支障になるものはあるか。

(事務局)

- グラウンドには過去の校舎の基礎が残っている可能性はあるが、詳細は把握していない。しかし、一般的な基礎であれば、新たな建築にあたって大きな支障にはならないと認識している。

(委員)

- 建物が1千㎡未満に制限されるとあるが、道路が広くなればこの制限は緩和され、新たな建物の規模は建ぺい率、容積率で考えることができるようになるのか。

(事務局)

- そのとおり。道路幅が十分に確保できれば、1千㎡未満の制限はなくなる。

(ファシリテーター)

- 視点2「建物の物理的条件」だが、西側校舎は築年数が60年から70年と古く、活用が困難と整理されている。北側校舎と体育館は今後20年程度使える可能性があることから、基本的にはこれらの建物を今後20年間どう使っていくかのアイデア出しいただくことになると思う。両建物の延床面積は合計2,500㎡もあることから、資料では複合的な利用も可能としている。この広さの建物をひとつの用途で利用することは難しく、様々なアイデアを組み合わせることで複合的に利用する可能性が高いとの説明があった。
- 交通については道路幅が狭いため、車での利用を考えると駐車場の確保等も考えていく必要がある。
- 視点2について、質問や確認しておきたいことはあるか。

(委員)

- 西側校舎は老朽化で今後の活用は困難とあるが、建物の取り壊しは予定しているのか。

(事務局)

- 建物を単に解体するだけでは県や国から補助金を得られない。新たな建物を造る際に古い校舎を解体すれば補助金の選択肢が広がる。現時点でいつ解体するかは明言できないが、財源が有利になるように検討を進めたい。

(委員)

- 田浦小学校の児童による跡地活用の提案は、西側校舎が老朽化で活用困難という前提を踏まえたものか。

(事務局)

- 西側校舎は使わない前提で検討されている。

（ファシリテーター）

- 視点3「施設の物理的な条件」は財政的な条件として、持続可能な運営には大規模改修や施設の維持などで生じるコストを賄っていくため、収入を得ることや民間のノウハウを導入することが重要との説明であった。
- 視点4「地域ニーズや既存機能への対応」は、地域の多様な意見を踏まえて地域の魅力と活力の向上に繋げていく、これまで小学校が担っていた既存機能（投票所、避難所、学校施設開放など）も併せて検討が必要との説明であった。
- これらの視点について、質問や確認しておきたいことはあるか。

（委員）

- 今回の協議会は跡地活用のアイデア出しが目的とのことだが、説明会では暫定利用についても多くの意見があった。これについて、この場で意見交換はしないのか。

（事務局）

- 暫定利用にかかる要望としては、子どもたちがグラウンドを使えるようにすること、図書室を開放すること、花壇を利用することの3点あったと認識している。
- 建物を利用いただくには管理者が必要となるため、地域で読み聞かせのボランティアをされている団体の方に図書室の開放について相談をしている状況。
- グラウンドは、無人の施設であることの危険性も考慮し、大人が見守る形で利用していただくことを案内している。

（ファシリテーター）

- 今の説明は現状についての説明であったが、質問の趣旨は、本日の意見交換で暫定利用のアイデアを出すことについてどう考えるか、ということだと思う。その点はいかがか。

（事務局）

- 協議会の最終目的は暫定利用ではなく長期的な利用になる。
- 長期的な利用に繋がるような暫定利用、例えば、いきなり本格的に始めるのではなく試行的に行えるものについてはご意見をいただきたいと考えている。
- その他の暫定利用については個別に対応したい。

（委員）

- 団体利用は個別に相談できるが、一般の方は利用できないとの意見が多く、団体登録をしていない方は全く使えないのが現状。その点については意見交換したい。

（ファシリテーター）

- 協議会は長期的な活用アイデアを出すことを主目的とするが、暫定利用も重要な議題なので、アイデア出しを排除するものではない。
- 暫定利用への要望やニーズが多いのであれば、この協議会の場で取り上げるのか、別の形で取り上げるのか、市で考えていただきたい。

（委員）

- 視点3について、運用面の話は理解できるが、建物を建て替える必要が生じた場合、そもそも持続可能なのか、そこをまず確認したい。
- 20年使えることで、それは持続可能という認識で良いか。

（ファシリテーター）

- そのあたりはいかがか？おそらく、この先20年だけを考えればよいということではない気がする。

（事務局）

- 本市の学校施設は、長寿命化計画に基づいて定期メンテナンスを実施してきた。田浦小学校に限らず、傷んだ部分は改修を行っており、80 年を耐用年数の目標としてメンテナンスができていないものと考えている。
- 西側の一番古い校舎は、昭和 28 年の建物。既に築年数が 70 年を超えており、改修を行っていてもあと 10 年使えるかどうかという状況。校舎は全て耐震補強済みだが、コンクリートは経年劣化するので、今後も永年使えるものではないと考えている。
- 北側校舎は、修繕を継続することで今後も 20 年以上使用できると見込んでいるので、そういった状況を踏まえて、ご意見をいただきたいと思っている。

（ファシリテーター）

- 今の説明は物理的な話であったと思う。北側校舎と体育館はあと 20 年使えるという話で、建て替えた場合の新しい施設は 80 年から 100 年使える。そこにどういう機能を入れるかについては様々な維持費や収支もあるし、将来的にニーズが変われば、また違う施設になる可能性もある。
- 現状の建物では 20 年、新しい建物は 80～100 年。用途や運営方法によってどれだけの期間、持続可能かが決まってくる話かと思うが、よろしいか。

（委員）

- 他地域での活用例で、民間に移管した施設が 30 年後の解体費用を自治体も民間も負担しない事例があったと聞いた。
- 持続可能な運営を考える上で、私たちは 20 年だけを考えれば良いのか、それともその先も踏まえて考えるべきなのかを確認したい。

（事務局）

- 本市の学校施設で民間の持ち物になった事例は少ない。施設が民間に移った場合、どこまで持続的に運営してもらえるかは、市としてお答えが難しい。
- 民間に完全に委ねると、民間は採算ベースで考えるため、採算が合わなければ閉鎖することも十分に考えられる。

（ファシリテーター）

- 現状の施設は 20 年程度しか使えないため、20 年後には建物の解体が必ず発生する。そのため、あらかじめ解体時の対応やその後の運営方法、民間との契約について考えておく必要がある。
- どのように運営し、建物の寿命が来たときに次にどう繋いでいくか、という点は市側で考えなければならないことだと思う。

（委員）

- 持続可能な運営には事業収入を得ることが必要との説明があったが、何をするにも費用がかかるため、現状のままで事業収入を得られるか確認したい。
- 梅林の時期の 1 ヶ月間は田浦に多くの車が来るが、駐車場がなくて帰ってしまう状況がある。そのような時に、現状のまま駐車場の収入を得ても良いものか、それとも民間の事業者へ管理を委託する必要があるのか確認したい。

（事務局）

- 公共駐車場の運営方法は複数あり、民間委託だけでなく市が直営でやる事例もある。規模や期間に応じて、適切な手法を選択することになる。

（委員）

- 跡地活用の検討にあたり、田浦の町をどうしたいという視点に欠けていると感じている。賑やかな町にしたいのか、静かな町にしたいのか、方向性が定まらなければ活用方法も定まらないのではないかと。まちづくりという観点から、どのような使い方が良いかという視点を入れることで、より良いアイデアが生まれると思う。

（ファシリテーター）

- 学校跡地はまさに町の核となる場所で、単に施設をどうするかだけでなく、田浦の町をどうしていくかということと、この施設をどう活用していくかが密接に結びついていると思う。

（事務局）

- 学校跡地の活用は単独で考えるのではなく、まちづくりの一部として考えるべき。一方、まちづくりの視点とは異なるが、用途地域は周辺エリアも含めて住居系に位置づけられている。
- 住居系の地域ということは、宿泊施設や遊戯施設で人や車が多く往来する場所ではない、との位置づけになる。
- 今後の田浦地域のあり方として、現状は住居系の規制があるが、跡地を町の一部として活かしていくのであれば、住居系という考え方だけで縛って良いのか、この協議会の場でご意見をいただきたいと思っている。

（ファシリテーター）

- 本来は田浦の町をどうしたいかが議論され、その方向性が明確になったうえで跡地の活用を検討していくのが理想的だと思う。しかし、そのステップを踏むのが難しいのであれば、本日はいったん自由にアイデアを出し、次回以降に絞り込む議論を進めていきたい。
- その次回以降に絞り込む際に、4つの視点に加えて、「田浦の町をどうしていきたいか」を考え、田浦が望むまちづくりの方向と合っているかという観点からも機能を検討していくことで、まちづくりの視点を取り入れることができるのではないかと。
- 本日は残りの時間で各委員からアイデアや意見をいただきたい。制約条件は確認したが、それについて一旦は気にせず自由にご意見いただきたい。

（委員）

- 月見台では市営住宅の再活用が進んでいるが、車が渋滞している。これまでは住民の自家用車だったが、仕事や物販のトラックが出入りし、近隣住民が苦慮している。
- 学校跡地も周辺道路の問題はアイデアを出すうえでの制約になると感じる。

（事務局）

- 市も現状には制約があると感じている。道路については学校敷地の一部をセットバックで広げることは物理的に可能だと考えているが、国道から学校に至る道路をすべて広げることは、民家の立ち退きが必要となるため、非常にハードルが高い。

(委員)

- 学校跡地の活用にあたっては、隣接する民間駐車場が妨げになる。学校への入口が狭く、神輿が入るのもぎりぎりの状況。そのため、民間の土地であっても入口を広げてほしいとの要望がある。

(委員)

- 隣接する民間の駐車場については、説明会の際にも取得すべきとの意見があった。そこが市の用地になれば、使い勝手はかなり広がる。
- 田浦地域は高齢者が多く、最寄りが長浦小学校になったことで、若い世代の転入は少なくなると思う。路線バスの本数が少なくなり、高齢者は行政センターまで行くのも難しくなっているため、跡地にコミュニティセンターや行政センターといった役所機能を設ければ、高齢者には大変使いやすくなる。
- 期日前投票なども田浦行政センターまで行かなければならないが、行政機能があれば、そのような活用もできると思う。
- 子どもについても、公民館のようなものであれば市職員の目が届くし、民間に警備を依頼するのも一つの方法。学校のグラウンドを遊び場などで開放できると良い。

(ファシリテーター)

- 主に高齢者の視点からコミュニティセンター、行政センター、子どもの視点からグラウンドを遊び場として使う意見があった。コミュニティセンターは子どもも高齢者も使える、多世代が交流できる機能が良いという意見が多かった。

(委員)

- 道路が狭いのがネックだと考えている。
- 体育館はレッドゾーンに一部入っているため、体育館と校舎①、②を取り壊し、補助金ができるように校舎を取り壊して新たに体育館を建て、体育館の場所に駐車場を造るのはどうか。梅林祭りで駐車場として利用できる。
- 最終的に築 50 年の校舎③、④も建て替える際に道路をセットバックして広くすれば、持続可能になるのではないかな。
- 将来的に使える形になれば、コミュニティセンターのような施設に加えて、ワークショップのような形で検討していくべき。
- 現状は管理人がおらず子どもが遊べない状況だが、例えば国道沿いのボランティアセンターを暫定的に小学校に移設し、日中の管理をしてもらうのはどうか。
- また、暫定的な使用方法として小学校で行われている放課後子ども教室のように、田浦の子どもたちを預かるのも良いと思う。

(委員)

- 田浦の人々が集まれる居場所づくりを、学校跡地を中心に進めたい。
- 船越や長浦にはコミュニティセンターがあるが、田浦にはない。高齢者も多いため、コミュニティセンターとして管理人を置いてもらえれば、田浦の子どもたちがグラウンドを使えない状況も解決する。この件は管理人を置くなど、早めに対応してほしい。
- 西側校舎は古いので、取り壊して、跡地に体育館を造れば避難所として寝泊まりができる。また、北側校舎も、災害時に宿泊ではなく別の用途で考えることができる。

（委員）

- 子どもたちが使いやすい施設にしたい。その中でコミュニティセンター機能を持つ施設にしてもらいたいのと、営利目的の利用も許容していただきたい。例えば、フリーマーケットや野菜の販売などは現状のコミュニティセンターでは難しい。一定のルールを設けたうえで、営利目的でも利用できる施設にできると良い。
- 今の流行りだと、ユーチューバーが教室を借りて撮影したり、インスタグラマーが写真を撮ったり、ドローンの練習ができたりと利益が絡む部分もあるが、そういう利用ができる施設が良いと思う。

（委員）

- 自身の所属する団体で跡地活用について意見を募ったところ、田浦地域にはコミュニティセンターがないため、設置してほしいとの意見が多かった。図書室を1階に移して、みんなで利用できるようにし、そのほか、駄菓子屋の出店や子ども食堂の設置、高齢者向けの体操教室などができると良いとの意見もあった。
- 施設管理はシルバー人材センターを活用するのはどうか。

（委員）

- 国道沿いの田浦地区ボランティアセンターを学校跡地に移設したら良いとの意見がある。ボランティアセンターは週3日、10時から15時まで運営している。相談員はボランティアセンター自体の運営は良いと考えているが、更に様々な機能が加わった時に対応できるか不安はある。あくまでボランティアの方々なので、休祝日に開放してほしいとなった時に対応できるかは課題と感じる。

（ファシリテーター）

- ボランティアセンターも1つの機能として入ることが考えられるが、個々のボランティアの方にとっては様々な意見があるだろうということで、その辺は慎重に運営方法などを考えていく必要があると感じた。

（事務局）

- 関連事例の紹介になるが、西地区の大楠幼稚園は昨年度末で廃止し、建物は様々な世代の方が使える複合施設として来年度にリニューアルオープンする。
- また、大楠地区のボランティアセンターは大楠の青少年の家を利用していたが、今回、青少年の家を廃止したときの利用者を幼稚園の跡建物で受け止めるとの考えもあり、ボランティアセンターも幼稚園の跡建物に入ってもらおうこととした。
- 複合施設内にボランティアセンターが入る意義としては、地域の人々が集う場にボランティアセンターが同居することで、これまでになかった地域向けの取り組みが期待できる。
- 先ほど、コミュニティセンターとしての活用案をいくつかいただいたが、人が集う場にさらに他の機能を設けることで、これまでなかったものが花開くのではないかと考えた考え方はあってよいと思う。

（ファシリテーター）

- 多世代交流の話もあったが、様々な機能が連携すれば、より多くの使い方が広がっていくと思う。ボランティアセンターがハブ、あるいはコアになっていくイメージが湧く事例だった。

(委員)

- ボランティアセンターは地区社会福祉協議会が週3回、人数を制限して運営している。小学校の建物には制約があるため、移設できるかの議論はまだできていない。

(委員)

- グラウンドを駐車場にした場合、健民運動会はどうなるのか。梅林祭りの時期には田浦へ多くの人に来てもらいたいので、駐車場とするイメージは以前から持っていた。
- 避難所や投票所など活用の用途は様々あるが、何を優先するか決めないとまとまらない。
- ボランティアは無償労働。海外では有償の場合が多いので、その点も考えてほしい。

(ファシリテーター)

- 次回以降に優先順位を決めながら絞り込んでいけると良い。
- 有償ボランティアで運営していく考え方もある。
- 管理運営をボランティアで無償にするのかは、今後の大きな論点の一つになると思う。

(委員)

- 少し話が変わるが、協議会のメンバーを途中で変えることは考えているのか。我々は20年先、50年先は生きていないかもしれない。
- 委員はだいたい同じ世代で、出る意見も身近なことばかり似たものになってしまうため、若い世代に入ってもらうのが良いのではないか。

(事務局)

- この協議会を実施するにあたっては、熟慮の結果、現委員の皆様にお声かけさせていただいた。協議会としては、引き続き皆様をお願いしたいと考えている。
- 地域説明会では様々な世代の方から意見をいただいております、一番多いのは60歳以上ですが、30代、40代、50代の方にも参加してもらえた。
- 学校跡地活用にかかる他地域の説明会は60歳以上の割合が田浦地域よりも高かったもので、これらの意見も参考にさせていただけるとありがたい。

(ファシリテーター)

- 基本的にはこのメンバーでということだが、地域説明会などでの意見には18歳以下の方も14%と多い。
- 若者の意見や児童の提案も参考にしながら議論を進め、知人の方などにも意見を聞いていただき、それをこの場で伝えていただけると、議論が広がっていくと思う。

(委員)

- グラウンドは毎週日曜日の午前中、高齢者の方々がグラウンドゴルフで利用しており、年に1回は健民運動会も行っている。
- 駐車場に関しては、例えば梅林祭りの時期に臨時駐車場として使う分には問題ないと思う。
- 先ほどの年代の話だが、小学生の提案の中にグラウンドを公園にしたいとの意見が多くあり、これもなかなか良いと感じる一方、公園では健民運動会ができなくなるかなとも思う。小学生の提案も参考になると思うので、持ち帰ってしっかり読ませてもらいたい。

(ファシリテーター)

- ドッグランなどのアイデアもあったので、子どもたちの意見も参考に議論を広げていけると良いと思う。

(委員)

- 商人の立場としては、町は間違いなく賑わってほしい。
- 空き家をなくし、人々には定住してもらいたい。梅林祭りの話はよく出るが、商人はその時期だけではやっていけないので、本当に魅力のある町になってもらいたい。
- 小学校がなくなってしまったので、若い世代は引っ越してこないと思う。それでも空き家問題などは田浦特有の立地を活用するなどして、定住に繋がる工夫をしていかなければいけないと思っている。
- 残っている商店は店舗では商売は成り立っていない。別の事業があるからこそ田浦で店舗の運営ができているのが実情。学校施設を使ってでも町ぐるみでも構わないが、商店のない町にならないようにしてもらいたい。
- 商売はさきほどから話に出てくるボランティアではない。そういったことが運営できる何かきっかけとなる施設になってもらえるとありがたいと思う。

(ファシリテーター)

- 賑わいという観点と、その中で商店や町と他の施設が相互連携し、空き家の解消も含めて、人を呼び込んでくるようなことも考えていくべきと感じた。

(委員)

- 賑わいの観点から言えば、泉町の奥にアーティスト村がある。様々なイベントをやっているが、行くまでの道路が狭い。例えば、田浦小学校の教室を使ってワークショップや陶器指導、絵の教室などを実施するのはどうか。
- 近くで人が集まるようなイベントやマルシェを週末にやるのも良いと思う。継続的に賑わいを生む活動ができれば良いと考えている。

(委員)

- 建物は壊すまでの間も活用してもらいたい。
- ピアノを残してもらおうとか、体育館を活用する、家庭科準備室での料理教室、音楽室では子どもたちや学生のバンド練習の場、視聴覚室でのダンス教室など、活用方法は様々あると思う。学校特有の教室を校庭も含めて有効活用できたら良いと思う。

(ファシリテーター)

- 実際に使われている学校でも、児童が使っていない時には特別教室を地域に開放しているケースがあるので、暫定利用として非常に効果的なアイデアだと思う。

(委員)

- 田浦小学校が閉校になる前に見学したが、卒業生が制作した作品や歴史的なものが結構残っている。田浦小学校の建物内に昔を偲ぶような、そういった歴史的なものを展示するスペースがあってもよいと思う。地域の人には思い出があるので、卒業記念で作った大きな作品などを飾るのもよいと思う。

(ファシリテーター)

- まさに 100 年の歴史の積み重ねがある場所でもあると思うので、そういう歴史とか文化といったものをきちんと残して、後々の世代に繋いでいくということも大事と感じた。

(委員)

- 田浦地域は道路を広げなければいけない。高熊川を暗渠にすればよいと思うので、道路を広げることを考えてほしい。

(ファシリテーター)

- 道路の問題についてはこの施設の検討にとどまらず、田浦地域のまちづくりの大きな課題と捉えて、市でも検討していただきたいと思う。

(委員)

- 暫定利用については、遊び場での開放や読み聞かせをやりたいなど意見がある。そういったものを行う場合の手続きや条件を早めに発信してもらいたい。
- 施設開放について市で前向きに検討してもらって、開放できるとなった場合にどこでどのように手続きをすればよいのか、この協議会とは別に市で条件を整理してもらいたい。

(ファシリテーター)

- 暫定利用について非常に高いニーズ、要望があると市側も感じていると思う。暫定利用については、やろうと思えばすぐにできることだと思うので、長期的な活用とは別に、地域が望むような形でできるよう、速やかに検討を進めていただきたい。

(事務局)

- 本日の協議会ではコミュニティセンター的な使い方や避難所についての意見は多かったが、積極的に公園にするべきとの意見はなかったと思う。
- 先日の地域説明会や意見用紙では公園を希望する意見が多かったことについて、ご意見をいただきたい。

(委員)

- ガラスが割られたりして施設のセキュリティ面に不安があると聞いていたので、公園にしてしまうと大変だと思った。

(事務局)

- 暫定利用ではなく、長期的にどういう場にしていきたいかといった観点から本日の協議会では公園についての意見がなかったので、何か感じていることがあればご意見いただきたい。

(委員)

- 子ども目線で話をすると、田浦はそもそも遊び場がなく、学校のグラウンドがイコール遊び場だったので、その感覚で話をしていると思う。子どもが自由に遊べる場所が遊び場なので、あえて公園でなくても良いという感覚。
- 池上コミュニティセンターの広場は自由に遊べるので、イメージに合っていると思う。いわゆる「公園」を求めているわけではなく、広場が欲しい。広場があれば子どもたちは自由に遊べる。

(委員)

- 公園は規制が多い。「ボールを投げたり、蹴ったりしてはいけない」「バットを振ってはいけない」等。公園が欲しいのではなく、自由に遊べる場所が欲しいのではないのか。

(委員)

- 説明会では公園がほしいとの意見もあったが、最近の子どもたちは家でゲームをしていて公園で遊ばない。そういった傾向が強いから、公園という話があまり出ないのかなと思う。
- 昔は子どもがたくさんいて、仲間でいろいろな遊びができた。今の子どもはやることがたくさんあって、外遊びに体力を使わないことが多いのではとも思う。

- 6丁目と港が丘の間には大きな公園があって、暑い時期ということもあると思うが、遊んでいる子はほとんどおらず、犬の散歩をする高齢者が多い。

(ファシリテーター)

- 本日いただいたアイデアについては、次回、事務局からフィードバックをしていく。
活用案のキーワードをまとめると次のとおり。
- ① 一番多かったものはコミュニティセンターとしての使い方
(多機能で多世代が交流できるような場所として、いろんな活動が可能で、図書室や子ども食堂、ボランティアセンターを入れるなど)
- ② 体育館は安全な場所に移転し、避難所としても使える施設 (レッドゾーンへの対応)
- ③ グラウンドは、子どもの遊び場として継続的に使える場
- ④ 梅林祭りなどの時期に臨時で駐車場として活用 (人を呼び込むための活用)
- ⑤ まちづくりの観点から、賑わいに結びつくような場
(アーティスト村との連携やマルシェなどの開催、商店と連携、様々なイベント開催)
- ⑥ 歴史があった学校であるので、田浦の歴史や文化を共有し、次の世代に繋いでいけるような機能
- また、暫定利用についても様々なご意見があった。それについては本協議会とは別に市で検討を進めていく。

(事務局)

- 事務連絡となるが、第3回の協議会は9月頃の開催を予定している。

5 閉 会

(FM推進課長)

- 皆様、長時間にわたり活発なご意見をいただきありがとうございました。本日は様々な面からご意見をいただきましたので、次回の協議会に向けて整理したうえで、庁内で検討させていただきたいと思います。それでは本日の会議はこれで終了とさせていただきます。

以 上